

「野崎家だより」のご挨拶

当公益財団法人の前身、財団法人竜王会館は1970年（昭和45年）に故野崎丹斐太郎が個人の宅地、家屋とその内容物を生前に出捐することで岡山県認可の財団法人として設立されました。爾来、1987年（昭和62年）に岡山県指定史跡「野崎家旧宅」の一般公開、1995年（平成7年）には野崎家塩業歴史館として国に博物館登録、2005年（平成17年）には県内の文化財保護や博物館運営の財団としては初の特定公益増進法人認定、2006年（平成18年）には重要文化財「旧野崎家住宅」として国に指定されました。その後、入館者累計百万人を達成し、2011年（平成23年）には岡山県内の博物館運営財団として初めて公益財団法人への移行が認められました。この間、国、岡山県、倉敷市そして地元を中心とした多くの方々のお力添えを頂き、深く感謝申し上げます。

野崎家は初代の武左衛門が現在の JR 瀬戸大橋線児島駅辺の海面を埋め立てることで製塩業を1829年（文政12年）に始め、続いて倉敷市の福田で同じく海を埋め立てて新田開発をすることで富を蓄積しました。そうした事業は孫の武吉郎、更にはその孫の丹斐太郎と受け継がれ、江戸時代に創業した全国唯一の塩業者直系企業であるナイカイ塩業株式会社として今日も国内塩生産の灯を保ちつつ、海水総合利用工業の道を邁進しております。また塩田跡地は駅及びその周辺の街区として形を変えて地元の発展に寄与することができております。

そうした背景から当法人が所蔵する文物は江戸時代後期から昭和の時代にかけてのこの地方の旧家に特有のものであります。文書類に関しては丹斐太郎が1964年（昭和39年）に研究者に書類蔵を開放した成果が1981年（昭和56年）に千頁弱の書籍「備前児島野崎家の研究」に結実し、2010年（平成22年）には創業180周年記念事業として2千6百頁の「野崎台湾塩行の研究」が出版されました。昨年度から科研費を得て専門の先生方による5年間の調査が始まっております。また所蔵美術品等の研究も10年余り、京都国立博物館を始めとする各分野の専門家による調査が継続されており、その成果の一環として京都国立博物館、岡山県立美術館、サントリー美術館、金沢能楽美術館、国立能楽堂他での一部の品の展示も催行されてきました。

野崎家塩業歴史館を運営する職員はナイカイグループ企業の社員として採用された後に各々が学芸員の資格を取得すること等でよりきちんとした管理をするように努めて参りました。元々が専門の研究者の背景を有しないことから従来「紀要」の発刊等は致してまいりませんでした。しかしながら折角年々の努力を重ねていることを何らかの記録として残すことに意義があるものと考えこの度は先ずはWEB上での「野崎家だより」の公開を試行することといたしました。皆様方から色々のご指摘、ご教示を賜れば幸甚です。

公益財団法人竜王会館
理事長 野崎 泰彦